

(公社)日本地すべり学会

東北支部だより

Vol.
25

東北支部事務局

〒980-0824
仙台市青葉区支倉町2番10号
株式会社テクノ長谷 内
担当:加藤、阿部 ☎022-222-6457

支部長就任のご挨拶

東北支部長 奥山 武彦
(山形大学・農学部教授)



4月23日に開催された東北支部総会で平成26・27年度の東北支部長に選任されました。非力な身には重責ですが、どうぞよろしく願いいたします。

東北地方太平洋沖地震と巨大津波、さらに原発からの放射性物質の拡散という未曾有の災害を被ってから3年半が経過しました。自然は遠い歴史上の出来事としてしか知らないような巨大災害を引き起こす力をわれわれの目前で振るいうるということを自覚するには、あまりにも大きな犠牲をはらいました。近年、100mm/時間を超えるような豪雨が頻発するようになり、水害や土砂災害が全国各地で繰り返されています。また、火山災害も現実のものとなりました。わが国の自然災害による被害を見ると、戦後間もなくは毎年のように台風や地震による大きな被害が続きましたが、その後は激減し、阪神・淡路や東日本の大震災が突出しています。国土強靱化、地方創生が重点政策と位置づけられましたが、地すべりによる交通の途絶が地域にとっては死活問題になるように、地域社会の安全・安心なくして発展はできません。自然の猛威を治めることができないならば、我々自身や社会の安全を担保するために知恵をしなければならぬことを再認識する今日、防災に関する学術研究は成果を社会へ還元する責任が重くなりました。

東北地方には全国の地すべり防止区域面積の約10%があり、多雪という誘因条件に加えて、大地震による崩壊も発生しています。近年は都市の拡大に伴う新興宅地での災害も社会問題になっています。東北支部では長年にわたって災害調査や機構解析を会員諸先輩が推進し、その

成果を発信してきました。日本地すべり学会の会員の所属が多岐にわたっていることは、地すべりの影響が多方面に及ぶことを裏付けています。個々の事例への対応が、まさに地に着いた地域貢献になりますが、実務に携わっている会員が多いことは、学会の成果を社会に還元しやすいということにもなります。(公社)土木学会東北支部、(公社)地盤工学会東北支部とともに、国土交通省東北地方整備局との「災害時における調査の相互協力に関する協定」を締結していますが、今年は(一社)斜面防災対策技術協会東北支部と、「地すべり等斜面防災対策技術の調査、研究、普及等に関する協定」を締結いたしました。運営委員や関係機関・団体のご指導をいただき、活発な支部活動を進めてまいりたいと思います。そして、今後を担う若い方々が学会活動の場で一層活躍しやすい仕組み作りも大切ですので、若手会員に支部幹事に加わっていただきました。

平成27年8月に第54回研究発表会及び現地見学会を山形市ならびに山形県内で開催することになり、実行委員会が発足しました。東北支部では平成16年の秋田大会以来の開催になります。各地で行われる大会に参加することは、研究発表や聴講だけでなく、その土地柄に接して五感を鍛える効果があると思います。ホスト支部として大会の裏方を担うことは大きな仕事ですが、全国の会員を迎えて研究交流を深めることで支部のアクティビティを高める引き金にもなります。実行委員、幹事のご尽力に負うところが大きですが、支部会員皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

主な行事予定

* 地震・豪雨地帯の斜面災害危険度軽減に関する科学技術推進のための国際会議に付随する巡検
日程：平成27年3月9日(月)～10日(火)
場所：2008年岩手・宮城内陸地震斜面災害復旧箇所、津波被災地、ほか

* 第3回国連防災世界会議パブリック・フォーラム防災・復興に関する展示
日程：平成27年3月14日(土)～18日(水)
場所：せんだいメディアテーク5・6階ギャラリー
※詳しくは5ページをご覧ください。

* 平成27年度(公社)日本地すべり学会 総会・シンポジウム
日程：平成27年6月19日(金)
場所：東京都(詳細は未定)
テーマ：未定

* 平成27年度(公社)日本地すべり学会第54回研究発表会及び現地見学会
日程：平成27年8月25日(火)～28日(金)
場所：山形テルサ
見学：銅山川地すべりを含む2～3コースを予定

<本部> <http://japan.landslide-soc.org> <支部> <http://japan.landslide-soc.org/branch/tohoku/>

濱崎英作氏が査読者賞を受賞

平成26年8月20日に茨城県つくば市で行われた平成26年度(公社)日本地すべり学会第53回研究発表会の表彰式で、丸井英明表彰委員長より表彰者選定経緯の説明があり、今回から新設された「査読者」賞を前副支部長の濱崎英作氏が受賞されて表彰されました。

濱崎氏に喜びの気持ちを綴っていただきました。

第53回(公社)日本地すべり学会研究発表会にて、初回の査読者賞という晴れがましい表彰をいただきました。関係者の皆様に深く感謝申し上げる次第です。

正直なところ、私のような浅学非才な者がこのように名誉ある表彰を受けるなどまったく意外なことでした。私以外にも、多くの方々が一生懸命に査読されておられることを十分存じ上げておりますし、おそらく多数の該当者があったのではないかと思ったし、なぜ私なのかと思議に思ったことではありません。

ただ、私自身が真に査読者賞に値するかどうかわかりませんが、私としては査読に当たり3つのことを心がけていました。

一つ目は、私に与えられた査読時間をできるだけ守ること、二つ目は、「てにをは」などの細かいところは別とし、著者のオリジナリティはどこかを考え、それを尊重しつつも論理的におかしいところはないかについてできる限り指摘するようにしたこと、最後に、ぎりぎり駄目と思われる内容でも、改善点や改善方法を指摘するようにしたこと、などが受賞の理由のひとつかもしれません。

実は、私自身、過去に本学会へ論文投稿させていただいたとき、私の論文に対して極めて率直で真摯な、また思いやりのある査読をいただき、本当にありがたく思った経験がありました。その後、学会の査読委員の一人に加えていただくようになったとき自らもこのような真摯で率直かつ改善の方法へのアドバイスを心がけようと誓い今に至っております。

そのようなことが受賞の理由のひとつであったとしても、率直なところまだまだ私には過大な賞であるとは思いますが、このうえはこの感激を胸に刻みまして、これからも学会の皆さまのご期待に少しでも応えることができるように精進努力する所存でございます。

今後とも、公益社団法人地すべり学会の会長をはじめ学会員の皆様から温かいご指導、ご鞭撻をいただけますようよろしくお願いいたします。



(株)アドバンテクノロジー
社長 濱崎 英作

第54回日本地すべり学会山形大会の開催が決定

平成26年3月19日に行われた(公社)日本地すべり学会平成25年度第4回理事会において、平成27年度の研究発表会及び現地見学会は山形市ならびに山形県内で行われることが決定されました。研究発表会実施細則(平成23年8月30日制定)によれば、「開催地は北日本ブロック(北海道支部、東北支部、新潟支部)、東日本ブロック(関東支部、中部支部)、西日本ブロック(関西支部、九州支部)の持ち回りとし、当該ブロック内で開催地および担当支部を決定する。大会の運営は担当支部が主体となって行う。」と定められております。平成27年度は北日本ブロックの順番で、ブロック内では平成24年度に札幌市(北海道支部)、平成21年度に新潟市(新潟支部)で開催されているため、今回は東北支部が担当することになりました。また、東北6県の中でも東日本大震災により大きな被害を被った県は開催候補地から除外され、山形県の県庁所在地である山形市で研究発表会が開催されることとなりました。

東北で研究発表会が行われるのは、平成16年度に秋田市で行われて以来、11年ぶりのことです。それ以

前には平成7年度に福島市、昭和63年度に仙台市、昭和56年度に秋田市、昭和51年度に天童市、昭和41年度に秋田市で行われております。

東北支部は山形市開催の決定報告を受けて準備会を組織し、八木浩司教授(山形大学地域教育文化学部)を中心に準備をすすめていることを4月23日の支部総会にて報告しました。その後、8月21日の茨城大会実行委員会・本部事業計画部との引継ぎ打ち合わせを経て、9月8日に山形大学で行われた第1回実行委員会において、八木教授が正式に実行委員長に選任されました。実行委員会と実働部隊としての幹事会のメンバーは下表のとおりです。

実行委員会の開催に先立ち、奥山支部長からは「東北・山形ならではの趣で全国の会員の方々をお迎えし、満足して帰っていただけるように、支部会員の皆様方にご協力をお願いします」との挨拶がありました。会場設営や研究発表会等の運営には多くのマンパワーとチームワークが必要です。産官学からの惜しみないご援助・ご協力をよろしくお願いいたします。また、折

角の東北での開催です。研究発表会への積極的な参加と発表を期待します。

平成27年度公益社団法人日本地すべり学会
第54回研究発表会及び現地見学会

○日程

平成27年8月25日(火)～8月28日(金)

○メイン会場(県民普及講演、開会式・表彰式・特別講演、研究発表会、閉会式)

山形テルサ(山形市双葉町1-2-3)

<http://www.yamagataterrsa.or.jp/>

○意見交換会会場

ホテルメトロポリタン山形(山形市香澄町1-1-1)

<http://www.metro-yamagata.jp/>

■ 実行委員会メンバー

区分	氏名	所属	備考
委員長	八木浩司	国立大学法人 山形大学 地域教育文化学部 教授	理事
副委員長	浅野志穂	独立行政法人 森林総合研究所 治山研究室長	理事
	奥山武彦	国立大学法人 山形大学 農学部 教授	理事
委員	磯部良太	東北地方整備局 河川部 河川計画課長	
	岸功規	東北森林管理局 計画保全部 治山課長	
	福田浩二	東北農政局 整備部 防災課長	
	清水信雄	山形県 県土整備部 砂防・災害対策課長	
	佐藤新	山形県 農林水産部 林業振興課長	
	渡邊正弘	山形県 農林水産部 農村整備課長	
	宮城豊彦	学校法人 東北学院大学 大学院 人間情報学研究所 教授	
	檜垣大助	国立大学法人 弘前大学 農学生命科学部 教授	理事
	山野井徹	国立大学法人 山形大学 名誉教授	
	菊池俊一	国立大学法人 山形大学 農学部 准教授	
	本山功	国立大学法人 山形大学 理学部 准教授	
	岡本隆	独立行政法人 森林総合研究所 東北支所 山地保全担当チーム長	
	奥山和彦	一般社団法人 斜面防災対策技術協会 東北支部長	
	高橋和幸	一般社団法人 全国地質調査業協会連合会 東北地質調査業協会 理事長	
監事	三上登志明	株式会社復建技術コンサルタント 技師長	
	新屋浩明	日本工営株式会社 仙台支店長	理事

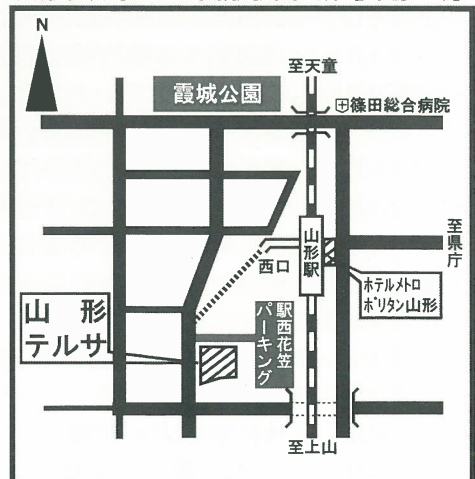
■ 幹事会メンバー

区分	氏名	所属	備考
幹事長	山科真一	国土防災技術株式会社 東北支社長	
副幹事長	佐藤剛	学校法人 帝京平成大学 現代ライフ学部 准教授	事業計画部
	森屋洋	奥山ボーリング株式会社 技師長	事業計画部
	渋谷保	日特建設株式会社 東北支店 技術部長	
幹事	金子和亮	日本工営株式会社 北東北事務所長	
	瀬野孝浩	株式会社 新東京ジオ・システム 常務取締役	
	井良沢道也	国立大学法人 岩手大学 農学部教授	
	高橋毅	東北森林管理局 計画保全部 治山課 調整指導係長	
	権元淳一	東北農政局 庄内あさひ農地保全事業所 調査課長	
	松田充	山形県 県土整備部 砂防災害対策課 課長補佐	
	梅津一寿	山形県 農林水産部 林業振興課 課長補佐	
	千葉則行	学校法人 東北工業大学 工学部 教授	
	梅村順	学校法人 日本大学 工学部 専任講師	
	大月義徳	国立大学法人 東北大学 大学院 理学研究科 助教	
	濱崎英作	株式会社 アドバンテクノロジー 社長	
	鈴木滋	日本工営株式会社 仙台支店 技術第2部長	
	黒墨秀行	株式会社 総合土木コンサルタンツ 取締役盛岡営業所長	
	押見和義	株式会社 復建技術コンサルタント 保全二部長	
佐々木実	基礎地盤コンサルタンツ株式会社 東北支社 山形支店 技術課長		
久野高明	基礎地盤コンサルタンツ株式会社 東北支社 山形支店 技術課 係長		
池田浩二	株式会社 東北開発コンサルタンツ 調査部		
三嶋昭二	応用地質株式会社 東北支社 ジオテクニカルセンター 上級専門職		
嵐田豊彦	新和設計株式会社 第二事業部 次長		
細谷健介	新和設計株式会社 第二事業部 調査二課長		
江口亨	東光計測株式会社 営業部 営業第一課長		
渡辺修	合同会社 スイモンLLC 業務執行社員		
佐藤健一	株式会社ダイヤコンサルタンツ 関東支社 地盤技術部 防災・地質課長		
山田孝雄	奥山ボーリング株式会社 技術本部 防災部長		
新田邦弘	地質基礎工業株式会社 取締役技術本部長		
大村泰	奥山ボーリング株式会社 技術本部 防災部 防災課 係長		
石川晴和	株式会社アドバンテクノロジー 技師		
長谷川陽一	国土防災技術株式会社 技術本部 試験研究所 課長補佐		

■ 役割分担

区分	担当者
総務	幹事長 山科真一
	副幹事長 佐藤剛
	幹事 渋谷保
	幹事 押見和義
	幹事 濱崎英作
	幹事 黒墨秀行
県民講演会	副委員長(兼務) 奥山武彦
	幹事長 松田充
	幹事 池田浩二
式典・研究発表	副幹事長 金子和亮
	幹事 鈴木滋
	幹事 三嶋昭二
意見交換会	幹事長(兼務) 山科真一
	副幹事長 梅津一寿
	幹事 嵐田豊彦
新技術紹介セッション	副幹事長(兼務) 森屋洋
	幹事 江口亨
現地検討会	副幹事長 瀬野孝浩
	幹事 高橋毅
	幹事 権元淳一

山形テルサ：JR山形駅西口から徒歩3分



(一社)斜面防災対策技術協会との支部間協定締結について

平成26年5月30日(金)、砂防会館別館「六甲」会議室において、(一社)斜面防災対策技術協会 奥山和彦会長と(公社)日本地すべり学会 檜垣大助会長(当時)が協定書にサインをして協定が締結されました。これにしたいが、東北支部間においても平成26年10月21日付けで協定を結びました。この協定は下の協定書に記載があるように、地すべり等斜面防災技術の調査、研究、開発、普及等に関して双方が協力し合い、斜面防災対策技術の向上発展に寄与することを目的としたものです。

また、大災害発生後には速やかに学会支部と協会支部が連絡をとり合い、災害調査団を派遣することとなります。これにより初期の学術的な緊急調査にとどまらず、効率的な災害復旧にもより一層の貢献ができるものと思われれます。

双方の活動の活性化のためにも、互いにメリットを実感できることから、協力しあっていきたいと考えます。

協 定 書

一般社団法人斜面防災対策技術協会東北支部(以下、協会支部という)と、公益社団法人日本地すべり学会東北支部(以下、学会支部という)は、地すべり等斜面防災対策技術の調査、研究、普及等に関し以下のとおり協定を締結する。

趣旨

1. この協定は、地すべり等斜面防災対策技術の調査、研究、開発、普及等に関し協会支部と学会支部が相互に協力して斜面防災対策技術の向上発展に寄与することを目的とする。

内容

2. 協会支部と学会支部は、以下の事項に関し協力を行う。

- (1) 地すべり災害等の現地調査に関する事
- (2) 地すべり等斜面防災技術の研究・開発に関する事
- (3) 地すべり等斜面防災技術の啓蒙・普及・研修に関する事
- (4) その他、両者が必要と認められる事項

協定の期間

3. この協定の施行は、平成26年10月21日からとする。

疑義の決定

4. 本協定に定めのない事項又は疑義が生じた事項については、その都度両者で協議して決定するものとする。

平成26年10月21日

一般社団法人 斜面防災対策技術協会東北支部
支部長 奥山 和彦

公益社団法人 日本地すべり学会東北支部
支部長 奥山 武彦

東北支部顧問 佐々木公典氏を偲んで

東北工業大学工学部教授 千葉則行

(公社)日本地すべり学会東北支部顧問をされておりました佐々木 公典氏が今年26年9月27日にご逝去されました。

<佐々木公典氏の略歴>

昭和 7年3月 長野県生まれ
 昭和31年3月 日本大学工学部卒業
 昭和31年4月 秋田県庁入職
 昭和36年4月 秋田県土木部砂防水利課砂防係長
 昭和48年4月 秋田県土木部砂防課長補佐
 昭和52年4月 秋田県岩見ダム・企業局発電所建設事務所長
 昭和54年5月 秋田県雄勝土木事務所長
 昭和56年4月 秋田県北秋田土木事務所長
 昭和57年4月 秋田県土木部砂防課長
 昭和62年4月 秋田県土木部河川課長
 昭和63年4月 秋田県出納局参事
 平成元年4月 秋田県商工労働部リポート推進事務局長
 平成 3年4月 秋田県企業局長
 平成 4年3月 秋田県庁定年退職
 同 年 4月 ドーピー建設工業株式会社入社



東北支部賞受賞時の佐々木氏

平成20年2月 株式会社石川技研入社
 平成24年9月 同社退社

平成9年3月～17年5月
 砂防ボランティア秋田県協会会長
 平成17年6月～19年4月
 NPO法人秋田県砂防ボランティア協会理事長

東北支部が設立した昭和60年5月当時、秋田県砂防課長職に就かれておられた佐々木公典氏は、支部設立に向けて盛合禱夫先生(現東北支部顧問・東北工業大学名誉教授)とともに奔走し、またそれ以降も東北の地すべり行政の意見を取りまとめて精力的に支部運営に携わって来られました。その間、東北支部の研究発表会、現地見学会、出版などの活動を通して、多数の地すべりに関わる若手技術者や研究者が育ちました。その結果、東北地方特有の地すべりの特徴が浮き彫りになり、全国的にも注目されるようになってまいりました。これらは偏に、東北支部設立当初から今日までご尽力頂いた研究者や行政および業界の方々の賜物といえますが、特に佐々木公典氏の功績は大きいものでした。

平成18年6月2日には(社)日本地すべり学会東北支

部総会において佐々木公典氏に対し、「(社)日本地すべり学会 東北支部賞」が授与されました。同賞は、東北地方において特に独創的な研究・技術開発に貢献したと認められる業績、あるいは地すべり分野の関係技術者の育成および技術力向上、さらには東北支部の活動に永年従事し、顕著な貢献をしたと認められる業績等に対して授与するものであり、佐々木公典氏は「東北支部賞」の受賞に十分価するものでありました。

佐々木公典氏にはこれまで支部顧問として支部運営等にご指導頂いておりましたが、ご逝去された今、その存在が如何に大きかったかと思ひますと、無念の思ひが一杯です。ここに改めて支部の皆様と共に、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げたいと思ひます。

2015年国連防災世界会議(仙台)への日本地すべり学会の取組

(公社)日本地すべり学会理事 檜垣 大助

2015年3月14～18日に、国連防災世界会議が仙台市で開催される。この会議は、国連世界防災の10年(IDNDR: International Decade for Natural Disaster Reduction)として、自然災害の軽減を目指して課題や今後の取組方向性などを各国が集まって議論するので、第1回が横浜、2回目が神戸(阪神大震災復興に合わせて)、そして今回が第3回であり、東日本大震災の発生から4年となる時期に仙台市での開催となった。

最近10年間のアジアにおける地震による激甚な斜面災害を振り返ってみると、2005年パキスタン北部地震(M=7.6)が山岳地帯を襲い、約8万人に犠牲者が出てその1/3がランドスライド災害によるものとされた。また、中国四川省で発生した2008年汶川地震(M=7.9)では、長大な地震断層の変位が現れ、大規模な崩壊・地すべりの災害だけでなくそれらによる多数の河道閉塞が生じた。2008年岩手・宮城内陸地震(M=7.2)では奥羽山脈で4,000箇所を超える崩壊・地すべりが発生、移動地塊量6,700m³に及ぶ大規模地すべりも発生、多数の河道閉塞が発生した。いずれも、2004年新潟県中越地震と併せ、内陸直下型地震での斜面災害の脅威を再確認させられた。さらに、2011年東北地方太平洋沖地震では、北海道から千葉県までにわたる巨大な津波災害と、広範囲で自然斜面・造成斜面での災害が丘陵地を中心に多数発生した。また、台風による台湾や紀伊半島での豪雨では、多数の深層崩壊による災害発生が注目された。そして、2013年伊豆大島災害や2014年の広島市での狭い範囲に集中した豪雨によって多数の犠牲者を出した崩壊・土石流災害が起こっている。

地球温暖化の進行による豪雨・干ばつの多発化や氷

河の融解、巨大地震・火山活動など、世界的に自然災害の脅威は高まっている。一方で、発展途上国を中心に人口増加や無理な開発が進み、先進国も含め、海岸に面する平野部にかつてない人口や経済社会機能の集積が進むなど、災害想起現象に対する受け手の脆弱性に起因した津波・洪水での巨大災害も想定されている。

このような状況のもと、世界での災害への対応能力の強化のためには、人知や情報を共有し、減災への課題整理・戦略的取組みを提案し実行していくことが急務である。今回の国連防災世界会議はこのような目的で開かれ、行政・政策レベルだけでなく市民レベルでの情報交換を行う。(公社)日本地すべり学会では、(一社)日本応用地質学会との共催で、後者の取組みとして、会議開催期間中に一般市民や会議来訪者へ向けたパブリックセッションでの展示を行うことになった。そこでは、岩手・宮城内陸地震や東北地方太平洋沖地震での斜面災害発生実態や、過去の斜面変動事例の分析から地震による斜面変動危険地域を把握する手法の開発、また、津波災害軽減へ地域で取り組んできた活動などを紹介する予定である。さらに、近年の発展した空間情報技術を使って、災害地周辺の地形の3次元表示などで地盤災害やその危険場所を一般の方に分かりやすく示す展示も検討中である。一方、同会議の直前に開かれる国際斜面災害研究機構(ICL)の国際会議では、津波災害・地震による斜面災害とその後の復興について見学する、各国から集まるこの会議への参加者向けの巡検を計画している。東北支部の皆様にも、非常に多忙な時期ではありますが、これらの行事に是非ご協力を賜れば幸いです。

若手幹事の自己紹介

東北支部幹事会は会勢拡大・充実のためフレッシュな頭脳が必要と考え、4名の若手に幹事会への参加を要請したところ、全員から快諾を得ることができました。正式に幹事となるのは次の総会において承認を得た後、支部長からの委嘱を受けてからですが、それまではオブザーバーとして幹事会に参加していただくことになります。

4名の方々に自己紹介をしていただきました。

株式会社 アドバンテクノロジー

石川 晴和さん



(株)アドバンテクノロジーの石川晴和と申します。本年度より幹事職を承りました。

大学時代は、東京農業大学オホーツク校にてエゾシカの食害について研究をしておりました。同じフィールドワークとはいえ、私が分野違いの現在の仕事に関わるようになったきっかけは、2011年の東日本大震災でした。当時、ご縁があり土木建築コンサルでお仕事をさせて頂いておりました。その時、大きな災害に対して、ひたむきに取り組まれる方々の姿を見てこの仕事に大きな魅力とやりがいを感じました。また、日々復旧される実家近くの道路や水路などを見て、その迅速な対応に感謝の思いを深くしました。

まだまだ経験が浅く未熟者ですので、皆様の知識とスキルの高さに圧倒されておりますが、精一杯努力していきたくて考えております。今後とも何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

国土防災技術株式会社

長谷川 陽一さん



厳寒の候、東北支部会員の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび東北支部の若手幹事に任命されました、国土防災技術(株)技術本部試験研究所の長谷川陽一と申します。

北海道滝川市出身の34歳でございます。24歳で弊社に入社し、初任地は山形市でした。その地で現東北支部幹事長の山科の部下として地すべり調査業務を3年間担当し、その後弊社試験研究所に配属され、現在は福島市で主にすべり面材の土質試験を担当しております。

以前には関東支部の事務局の一員として雑用係もやっておりました。今後は東北支部の若手幹事として支部活動が活発になるよう任務に邁進していきたいと思っておりますが、まずは山形市での第54回研究発表会が成功裏に終わるよう、事前準備と当日運営を頑張る所存でございます。皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

奥山ボーリング株式会社

大村 泰さん



私は秋田県横手市中心地から南西に約10km離れたところに位置する平鹿町浅舞というところに生まれました。鳥海山を背景に織りなす四季折々の田園風景と豊富に湧き出す美味しい地下水が自慢の町です。そんな自然豊かな環境で育ったものですから、性格についてはおっとり系とお伝えしておきます。

さて、故郷にはこの環境を生かした酒蔵が2つ(浅舞酒造と舞鶴酒造)あります。いずれも全国新酒鑑評会で金賞を受賞した実績を持っており、お酒に拘り多い東北支部会員の方々も満足する美酒に出会えるかもしれません。仕事などで秋田へお越しの際は、是非ともご賞飲ください。

最後に、諸先輩方のご指導を賜りながら精進して参ります。何卒、宜しく願い申し上げます。

基礎地盤コンサルタンツ株式会社

久野 高明さん



このたび日本地すべり学会東北支部の幹事を務めさせて頂きます基礎地盤コンサルタンツ(株)久野と申します。私は学生時代、地学系講座に席をおいて主に花崗岩の風化過程を研究していました。大学では、地すべりは自然サイクルの中の浸食現象の一つであると学んだ程度でした。しかし、入社して地すべりの実務に係り現地調査するようになり、地すべりは単なる浸食現象というだけでなく、地すべりはそれぞれの土地の特性や気象条件を素因・誘因として発生する現象であり、人間同様にさまざまな個性を持つ複雑な現象だということを知りました。その複雑さゆえ各々の地すべり機構の把握に頭を悩ませる日々です。今後も実務や学会活動を通して経験を積み、地すべり災害の軽減を目指すひとりの技術者として、社会貢献していきたいと思っております。以上を持ちましてご挨拶とさせていただきます。

平成26年度支部総会議事内容

第1号議案 平成25年度事業報告

<総会、意見交換会(平成25年4月25日)>

総会：仙台市戦災復興記念館 記念ホール、参加者68名
意見交換会：ホテルグランクラス仙台国分町、参加者50名

<シンポジウム(平成25年4月25日、参加者113名)>

場所：仙台市戦災復興記念館 記念ホール
テーマ：「空間把握・解析技術の進展と斜面防災への活用」
講演：宮城 豊彦氏(地すべり地形判読手法確立)
内山 庄一郎氏(空間把握の進展とGISの活用)
横山 隆三氏(高精度のDEMの活用と空間把握)
林 一成氏(GIS解析技術の適用)
小荒井 衛氏(GISをベースとした斜面変動リスクの評価)
檜垣 大助氏(危険箇所評価手法の確立)

総合討論司会：内山 庄一郎氏

<現地検討会(平成25年10月10-11日、参加者44名)>

場所：秋田県砥沢地すべり
会場：フォレスト鳥海・会議室
テーマ：秋田県砥沢地区
大規模岩盤地すべりにおける諸問題とその対応

<社会貢献活動>

活動1：災害緊急調査(平成25年9月1日、参加者5名)

場所：秋田県仙北市供養仏地区
内容：秋田岩手豪雨による災害調査を砂防学会と共同で実施

活動2：講師派遣1(平成25年5月16日、1名)

名称：宮城県砂防ボランティア協会技術講習会

活動3：講師派遣2(平成25年6月21日、1名)

名称：山形県砂防ボランティア協会技術講習会

活動4：現地案内(平成25年7月25日、2名)

名称：地すべり監視体制、ならびに緊急対応方式に関する実地見学
(クロアチア災害軽減プロジェクト、JICA、JST)

活動5：講師派遣3(平成25年10月25日、2名)

名称：平成25年度2協会合同技術講習会
(山形県地質土壌調査業協会・山形県建設コンサルタント協会)

活動6(平成25年7月7日、1名)

名称：栗駒山麓ジオパーク推進協議会設立総会

活動7(平成25年8月1日、1名)

名称：栗駒山麓ジオパーク推進協議会

<東日本大震災関連の活動(1回/月、1名)>

名称：東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会定例会議
(2年間にわたる震災調査報告をとりまとめDVDとして発刊)

<運営委員会、幹事会>

運営委員会：1回開催(平成25年3月18日、17名)

幹事会：2回開催(平成25年9月24日、13名、
平成26年2月8日、11名)

役員会：1回開催(平成26年2月8日、11名)

第2号議案 平成25年度事業報告

(収入の部)

(単位：円)

科目	本年度予算	本年度決算	増減	備考
協賛金・寄付金	480,000	460,000	20,000	
支部協賛金	480,000	460,000	20,000	
事業収入	930,000	682,000	248,000	
意見交流会	180,000	225,000	△45,000	
現地検討会	450,000	457,000	△7,000	
講習会	300,000	0	300,000	
雑収入	0	276	△276	
利子	0	276	△276	
その他	0	0	0	
当期収入合計	1,410,000	1,142,276	267,724	
前期繰越収支差額	1,618,380	1,618,380	0	
収入合計	3,028,380	2,760,656	267,724	

(支出の部)

(単位：円)

科目	本年度予算	本年度決算	増減	備考
総会関係費	30,000	34,120	△4,120	
事業企画費	125,000	56,373	68,627	
運営委員会	5,000		5,000	
幹事会	25,000	44,943	△19,943	
役員会	5,000		5,000	
部会	5,000		5,000	
通常旅費・交通費	50,000	11,430	38,570	
緊急調査費	30,000		30,000	
資料	5,000		5,000	
事業運営費	1,240,000	814,377	425,623	
意見交流会	180,000	246,000	△66,000	
シンポジウム	200,000	123,355	76,645	
現地検討会	500,000	445,022	54,978	
会勢活動	30,000		30,000	
他学会共催行事	30,000		30,000	
講習会	300,000		300,000	
管理費	273,000	166,266	106,734	
ホームページ	33,000	33,411	△411	
通信運搬費	100,000	32,129	67,871	
事務費	40,000	726	39,274	
事務委託費	100,000	100,000	0	
予備費	50,000	0	50,000	
当期支出合計	1,718,000	1,071,136	646,864	
当期収支差額	△308,000	71,140	△379,140	

会計監査報告

平成25年度(公社)日本地すべり学会東北支部の会計監査の結果、適正に会計処理されていると認めます。

平成26年4月10日

会計幹事 齋藤 春美 印
会計幹事 小杉 徳彦 印

第3号議案 平成26年度収支予算案

<平成26年度 総会、意見交換会(平成26年4月23日)>

場所：総会(仙台市戦災復興記念館)
意見交換会(ホテルグランテラス仙台国分町)

<シンポジウム(平成26年4月23日)>

場所：総会(仙台市戦災復興記念館)
テーマ：東北の地震と地すべり、その知見と教訓
講演：宮城豊彦氏(2008岩手・宮城内陸地震と2011東北地方太平洋沖地震を振り返って)、若井明彦氏(FEM地震応答解析と地すべりの発生メカニズムについて)、梅村順氏(東北地方太平洋沖地震での福島県内火山灰地域で発生した地すべりから得た知見)、佐藤真吾氏(2011東北地方太平洋沖地震での宅地のすべり変状と対策)、千葉則行氏(2011東北地方太平洋沖地震での松島湾での斜面崩壊と知見)、濱崎英作氏(地すべり発生の分布と地形地質から得た地すべり要因に関する知見)
総合討論司会：林一成氏

<社会貢献・会勢活動>

- ・災害時の緊急調査団の派遣
- ・出前講義
- ・小中学校などの防災教育への取り組み
- ・栗原ジオパーク構想におけるビューポイント検討やジオガイド養成講座などへの支援

<他学協会との交流活動>

各種行事の共催、後援などによる連携を高める

<広報活動>

支部ホームページでの情報発信を行う

<運営委員会、幹事会、役員会(随時)>

<地すべり検討会(平成26年10月(予定))>

場所：山形県内の地すべり地

第4号議案 平成26年度収支予算案

(収入の部)

(単位：円)

科目	本年度予算	本年度決算	差異	備考
協賛金・寄付金	480,000	480,000	0	
支部協賛金	480,000	480,000	0	
事業収入	630,000	930,000	△300,000	
意見交流会	180,000	180,000	0	
現地検討会	450,000	450,000	0	
講習会		300,000	△300,000	
雑収入	480	0	480	
利子	480	0	480	
その他	0	0	0	
当期収入合計	1,110,480	1,410,000	△299,520	
前期繰越収支差額	1,689,520	1,618,380	71,140	
収入合計	2,800,000	3,028,380	△228,380	

(支出の部)

(単位：円)

科目	本年度予算	本年度決算	差異	備考
総会関係費	50,000	30,000	20,000	
事業企画費	125,000	125,000	0	
運営委員会	5,000	5,000	0	
幹事会	25,000	25,000	0	
役員会	5,000	5,000	0	
部会	5,000	5,000	0	
通常旅費・交通費	50,000	50,000	0	
緊急調査費	30,000	30,000	0	
資料	5,000	5,000	0	
事業運営費	860,000	1,240,000	△380,000	
意見交流会	240,000	180,000	60,000	
シンポジウム	150,000	200,000	△50,000	
現地検討会	450,000	500,000	△50,000	
会勢活動	10,000	30,000	△20,000	
他学会共催行事	10,000	30,000	△20,000	
講習会		300,000	△300,000	
管理費	200,000	273,000	△73,000	
ホームページ	30,000	33,000	△3,000	
通信運搬費	30,000	100,000	△70,000	
事務費	40,000	40,000	0	
事務委託費	100,000	100,000	0	
予備費	0	50,000	△50,000	
当期支出合計	1,235,000	1,718,000	△483,000	
当期収支差額	△124,520	△308,000	183,480	
次期繰越収支差額	1,565,000	1,310,380	254,620	

学会活動報告

平成26年度支部総会・シンポジウム

平成26年4月23日(水)、仙台市戦災復興記念館「記念ホール」に於いて、(公社)日本地すべり学会東北支部 第30回総会、ならびに平成26年度シンポジウムが開催された(参加者数：109名)。

支部総会

総会は、幹事長:山科真一氏の進行の下、支部長:千葉則行氏の挨拶で始まり、平成25年度事業報告、同収支決算・会計監査報告、平成26年度事業計画案、同収支予算案についての審議が進められ、各議案とも原案どおり満場一致で承認された。加えて、平成26・27年度の新たな支部役員として、先の支部運営委員会での推薦どおり、次の方々が満場一致で承認された。

支部長：奥山武彦氏(山形大学農学部教授)

副支部長：橋本芳治氏(宮城県防災砂防課長)

森屋洋氏(奥山ボーリング株式会社)

監査：小杉徳彦氏(宮城県森林整備課長)

三上登志男氏(株式会社復建技術コンサルタント)

千葉則行支部長は挨拶の冒頭で、この東北支部が昭和60年に設立されてから来年で30周年を迎えること、それと時を同じくして来年の全国大会が東北(山形県)で予定されていることに触れられた。一昨年に日本地すべり学会が公益社団法人化されたことも合わせ、今後も積極的な社会貢献を意識した活動を進めていきたいとの抱負を述べられ、会員方々への協力を呼びかけた。また、学会本部の地震地すべり特別研究プロジェクトや、2011年の震災直後に結成された7学協会東北支部学術合同調査委員会からの成果報告など様々な成果が出揃ってきている今、これらを今後予想される巨大地震の対策にどう生かすかが課題であると、今回のシンポジウムの主旨を説明した。

シンポジウム

『東北の地震と地すべり、その知見と教訓』

—2008岩手・宮城内陸地震と

2011東北地方太平洋沖地震を振り返って—

主に標記の地震地すべりに関してこれまでに得られている研究成果を総括し、今後の斜面災害対策に生かすべく、6名の講演者による基調講演・講演、および総合討論形式による議論がなされた。

基調講演：「2008岩手・宮城内陸地震と2011東北地方太平洋沖地震を振り返って」宮城豊彦教授(東北学院大学)

講演2：「FEM地震応答解析と地すべり発生メカニズムについて」若井明彦教授(群馬大学)

講演3：「2011東北地方太平洋沖地震での福島県

内火山灰地域で発生した地すべりから得た知見」梅村順教授(日本大学)

講演4：「2011年東北地方太平洋沖地震での造成宅地の滑動被害から得られた知見」佐藤真吾氏(株式会社復建技術コンサルタント)

講演5：「2011東北地方太平洋沖地震での松島湾・石巻周辺での斜面変動と知見」千葉則行教授(東北工業大学)

講演6：「地すべり発生の分布と地形地質から得た地すべり要因に関する知見」濱崎英作氏(株式会社三協技術/株式会社アドバンテクノロジー)

総合討論 司会：林一成氏(奥山ボーリング株式会社)

宮城豊彦教授の基調講演では、標記の地震・地すべり災害に関する研究成果の概要が紹介されると共に、今後の地すべり防災科学のあり方についての提言がなされた。

2004新潟県中越地震をきっかけに地震地すべりに関する研究が盛んになった背景として、地すべり地形分布データやシームレス地質図、5mグリッドDEMデータなど、地すべりに関する情報整備や、それを一元的に管理するGIS技術、解析技術の発展が欠かせなかったことが述べられた。例えば、2008岩手・宮城内陸地震や2011東北地方太平洋沖地震で発生した斜面災害の分布・特徴等が地すべり地形分布に重ねられることで、地すべり地形との位置関係が直感的に理解できる、我々はそういう時期に来ているのだと。

地すべり発生現場に赴き、保全対象の有無を確認、踏査・査定をし、対策を考える… いわば「対処療法」も大事であり、これからも行う必要は当然あるが、今後は更に、潜在的な災害可能性を把握し、予知・予測によって危険を回避する時代へ変わっていくだろう。個々の地すべりの危険性の評価(Landslide Risk evaluation)はこれからはますます進むであろうし、その場所だけでなく、似たような発生しやすい場所はどこにあるのか(Susceptibility)を評価できるようになりつつある。そうして得られる知見を、地域の計画に生かしてこそ減災(社会)が実現する。そういった情報が管理できそうな今、地すべり情報をできるだけ開示することが必要で、同時にその情報を利用するための指南もペアで行われることが重要である。我々が地域の減災に資する為に、今後も努力したいと力説された。



学会活動報告

平成26年度地すべり現地検討会「山形県・銅山川地すべり」

平成26年10月21日(火)～22日(水)の2日間にわたり、恒例の現地検討会が開催された。

現地検討(第一日目午後)

平成26年10月21日、山形県肘折温泉近くの湯の台スキー場駐車場に集合した参加メンバー総勢37名は、東北森林管理局山形県森林管理署最上支署の総括治山技術官・田口正之氏のご挨拶および同署治山グループ大蔵治山事業所治山技術官・武藤哲平氏の概要説明を受けた後、選定された車両に分乗して、銅山川地すべりの現場内に向かった。銅山川地すべりは、平成8年の融雪時期に大規模に地すべり活動が発生し、その地すべりブロック規模は長さ約1.3km、幅約1.1km、最大地すべり面深度180mと日本有数の規模であることが知られている。現在は排水トンネル工が完成し、地すべり変動は安定化に至っており、一部集水井工やシラス崩壊対策工を実施しながら効果判定中との事である。

地すべり現場の視察は、東北森林管理局山形県森林管理最上支署および調査担当の国土防災技術株のご協力により準備された現地視察資料および現地視察ルートに従って、地すべり末端部から地すべり地内を経て陥没帯、頭部陥没帯へ至るコースを取った。

まず地すべり末端に位置する一級河川銅山川右岸側の地すべり末端状況の視察では、上流側ですべり面の最大傾斜方向、下流側ではすべり面の走向方向に連続するすべり面が一望でき、移動方向の偏向など銅山川地すべりの活動特性について活発な議論がなされた。その後、現在施工中の深度109mに及ぶ集水井工施工地点、国道458号脇のシラス崩壊対策工施工地点を経て、強制排水工地点やシラスの急崖などを見学しながら大規模に形成された陥没帯周辺の特異な地形を目の当たりにすることが出来た。最後に頭部陥没帯において、陥没状況と地すべり背後の古水沢に向かつての崩落対策状況を確認し、現地検討を無事終えた。



銅山川地すべり末端の視察状況

当日の晩は、雨で冷え切った体を肘折温泉のお湯で温めた後、夜からの参加者を加え、恒例の意見交換会

で地すべり談義に花を咲かせた。

室内検討(第二日目午前)

今回の室内検討のテーマは、「銅山川地すべりのすべり面形状の特異性、地すべり運動のギャップ、大規模地すべりの長期安定化課題について」の3点であった。室内討議は6班に分かれて討議してもらい、その後、各班の代表者が発表後、全体で討論する手順で進化した。討議内容の概要を以下に紹介する。

- ◆シラス堆積前の地形では、銅山川あるいはその支流が現在の地すべり北側にあったと推察され、初生地すべりとして新第三紀層(野口層・古口層)での地層傾斜に沿ったすべりが考えられる。シラスの堆積は、初生地すべりに対し、載荷重となって地すべりを大規模化させた可能性が考えられる。現在の銅山川地すべりへの地下水供給については、この旧河道に沿った流入も考えられる。
- ◆地すべり移動量のギャップは、頭部域のすべり面傾斜が大きいのに対し、末端域で小さい事が一因となっている。
- ◆長期安定化については、計画安全率の設定、1/100確率年に応じた地下水位の考慮、地震時の安定性などが課題となる。計画安全率を $F_s=1.00$ などとする場合、付帯条件を付けての概成となるのではないかと、小ブロックの安定化を含めて考えるべきである。
- ◆地すべり防止施設の維持管理として、主工法となっている地下水排除工の機能維持が重要である。
- ◆地すべり変動の監視として、拡大性にも配慮した経年的なLPデータの対比やGPS観測、点検が必要であり、地すべり頭部の耐雪型地盤伸縮計や地すべり末端域での地中伸縮計による自動監視も有効ではないか。

今回の現地検討会は、学生の参加こそなかったものの、女性2名を含む比較的若い年代の技術者が多く、意見交換会や室内検討での討議も熱気に溢れ盛会なものとなった。次年度は第54回日本地すべり学会研究発表会が山形での開催となるため、東北支部としての現地検討会は休止となるが、山形大会開催を機にさらなる若い多くの技術者が東北支部のイベントに参加するよう紙面を借りてお願いしたい。

最後に、今回の現地検討会を開催するにあたり、東北森林管理局山形県森林管理署最上支署および調査担当の国土防災技術株の方々から多大なるご協力、ご支援を賜りましたことを報告するとともに、ここに感謝申し上げる次第です。

平成26・27年度東北支部役員(敬称略)

顧問	盛合 禧夫 (東北工業大学 名誉教授)				
	佐々木公典 (元秋田県企業 局長)				
支部長	奥山 武彦 (山形大学農学部 教授)				
副支部長	橋本 喜次 (宮城県防災砂防課 課長)				
	森屋 洋 (奥山ボーリング(株) 技師長)				
運営委員	阿部 真郎 (奥山ボーリング(株) 顧問)				
	伊藤 驍 (国立秋田高専 名誉教授)				
	井良沢道也 (岩手大学農学部 教授)				
	梅村 順 (日本大学工学部 専任講師)				
	大河原文文 (岩手大学工学部 准教授)				
	大月 義徳 (東北大学大学院理学研究科 助教)				
	加藤 彰 (株テクノ長谷 部長)				
	橋本 修一 (東北電力(株) 調査役)				
	檜垣 大助 (弘前大学農学生命科学部 教授)				
	宮城 豊彦 (東北学院大学大学院人間情報学研究科 教授)				
	八木 浩司 (山形大学地域教育文化学部 教授)				
	千葉 則行 (東北工業大学工学部 教授)				
	山崎 孝成 (国土防災技術(株) 相談役)				
	濱崎 英作 (株アドバンテクノロジー 社長)				
	高橋 克実 (土木地質(株) 会長)				
	高見 智之 (国際航業(株)東北支社 技術部長)				
	磯部 良太 (国土交通省東北地方整備局河川計画課 課長)				
	藤沢 和範 (国土交通省東北地方整備局新庄河川事務所 事務所長)				
	森 一司 (農林水産省東北農政局資源課 地質官)				
	福田 浩二 (農林水産省東北農政局防災課 課長)				
	岸 功規 (林野庁東北森林管理局治山課 課長)				
	今 孝治 (青森県河川砂防課 課長)				
	一戸 文爾 (青森県林政課 課長)				
	吉尾 成一 (秋田県河川砂防課 課長)				
	佐藤 龍司 (秋田県森林整備課 課長)				
	倉部 明彦 (秋田県農地整備課 課長)				
	加藤 郁郎 (岩手県砂防災害課 総括課長)				
	伊藤 節夫 (岩手県森林保全課 総括課長)				
	小川 辰壽 (福島県砂防課 課長)				
	鈴木 明 (福島県森林保全課 課長)				
	菊池 和明 (福島県農村基盤整備課 課長)				
	清水 信雄 (山形県砂防・災害対策課 課長)				
	梅津 勘一 (山形県林業振興課 森林技術主幹)				
	渡邊 正弘 (山形県農村整備課 課長)				
	渡辺 真人 (東日本高速道路(株)東北支社技術企画課 課長)				
	秋山 保行 (東日本旅客鉄道(株)仙台支社設備部 工事課長)				
	三和 公 (東北電力(株)土木建築部 部長)				
	奥山 和彦 ((一社)斜面防災対策技術協会東北支部 支部長)				
	熊井 直也 (国土防災技術(株)東北支社 技術部長)				
	早坂 功 (株テクノ長谷 社長)				
	伊藤 握 (株日さく秋田支店 支店長)				
	金子 和亮 (日本工営(株)北東北事務所 所長)				
	小林 俊樹 (株復建技術コンサルタント 技師長)				
監事	小杉 徳彦 (宮城県森林整備課 課長)				
	三上登志男 (株復建技術コンサルタント 技師長)				
幹事会					
幹事長	山科 真一				
副幹事長	渡辺 修	山田 孝雄	佐藤 健一		
幹事	渋谷 保	鈴木 滋	三嶋 昭二	瀬野 孝浩	押見 和義 黒墨 秀行
	新田 邦弘	池田 浩二	細谷 健介		
オブザーバー	石川 晴和	大村 泰	長谷川陽一	久野 高明	

(公社)日本地すべり学会東北支部 運営規程

- 第1条** (公社)日本地すべり学会定款第2条に基づいて、(公社)日本地すべり学会東北支部(以下「支部」という)を設置する。
- 第2条** 支部会員は、主として東北在住で本部に入会している一般会員と、さらに支部事業に関連する機関の担当者で支部長から委嘱された委嘱会員をもって構成する。
- 第3条** 支部に役員、顧問、運営委員、幹事長、副幹事長、幹事を置く。
 顧問 若干名
 支部長 1名(役員)
 副支部長 若干名(〃)
 監事 2名(〃)
 運営委員 若干名
 幹事長 1名
 副幹事長 若干名
 幹事 若干名
- 第4条** 第3条に掲げる役職の任期は2年とする。再任は妨げない。前年度の運営委員会が支部会員のうちから推薦し、総会において承認を得る。
 2 顧問、運営委員、幹事長、副幹事長及び幹事は支部長が委嘱する。
- 第5条** 支部長、副支部長、監事及び運営委員の任務は、「支部運営細目」に準ずるものとする。
 2 顧問は支部の会務に対して助言を与えるものとする。
 3 幹事は支部事業に関する実務を行い、幹事長はこれを総括する。副幹事長は幹事長を補佐する。

- 第6条** 支部の会議は、総会、役員会、運営委員会及び幹事会とする。
 2 総会、役員会及び運営委員会の召集、開催、内容等は、「支部運営細則」に準ずるものとする。ただし、役員会には幹事長、副幹事長も含むものとする。
 3 幹事会は幹事長が召集し、必要に応じて役員会の参加を求めることができる。
 4 支部長が必要と認めるときは、委員会を設置し、召集することができる。
- 第7条** 総会、運営委員会の議事は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数のときは、支部長の決定による。
- 第8条** 支部の経費は協賛金、寄付金その他の収入をもってあてる。
- 第9条** 支部の事業年度は、毎年4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第10条** 別に定める支部表彰規程に基づき表彰を行うことができる。
- 第11条** この規程を改廃しようとするときには、総会の議決を経なければならない。

付 則

1. 本運営規程は、平成24年10月1日から施行する。

支部協賛会社(36社)

支部活動は、協賛をいただいている各企業の協賛金と皆様のマンパワーにより支えられております。支部活動の拡大・活性化のために、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- (一社)斜面防災対策技術協会 東北支部
- (株)アサノ大成基礎エンジニアリング 東北支社
- (株)アドバンテクノロジー
- 応用地質(株) 東北支社
- 奥山ボーリング(株)
- 川崎地質(株) 北日本支社
- 基礎地盤コンサルタンツ(株)東北支社
- (株)計測技研
- 国際航業(株) 東北支社
- 国土防災技術(株) 東北支社
- (株)新東京ジオ・システム
- 新和設計(株)
- (同)スイモンLLC

- (株)測商技研 秋田支店
- (株)ダイヤコンサルタント 東北支社
- 地質基礎工業(株)
- 中央開発(株) 東北支店
- (株)テクノ長谷
- (株)東建ジオテック 東北支店
- 東光計測(株)
- (株)ドーコン 東北支店
- 東邦技術(株)
- 東北ボーリング(株)
- 土地地質(株)
- 日栄地質測量設計(株)
- (株)日さく 秋田支店

- 日鉄鉦コンサルタント(株) 東北支店
- 日特建設(株) 東北支店
- 日本基礎技術(株) 東北支店
- 日本工営(株) 仙台支店
- (株)平野組
- 不二ボーリング工業(株) 仙台支店
- (株)復建技術コンサルタント
- 三菱マテリアルテクノ(株) 秋田支店
- 明治コンサルタント(株) 東北支店
- ライト工業(株) 東北総括支店

編集後記

今年号は24号以来、4年ぶりに発刊されました。「支部会員や国・各自治体の地すべり関係部署へ支部活動を積極的にアピールするには、ホームページのみならず支部だよりの発行が必要だ」との声が多く、発刊を再開することとなりました。今回は、暫定広報委員長の私が独断で右の方々を委員に指名させていただき、また、多くの方々に寄稿をお願いしました。来年はさらに若手を委員に起用し、広く情報を収集して内容をより充実させたいと考えております。
 異常気象により毎年土砂災害が発生し、多くの

人命・財産が失われている中で、地域を守るために我々地すべり屋が果たすべき役割は年々大きくなっております。宮城先生がシンポジウムの基調講演において、地すべり防災科学のあり方の展望を述べられました。支部会員全員がデータ活用技術を十分に習得し、地域を理解し、いかなる時にもプロとして地域減災に貢献できる心構えを持っていなければならないと考えます。
 支部だよりに関するご意見や投稿希望がありましたら、事務局までお知らせください。よろしくお願いいたします。(森屋 洋)

広報委員会

- 委員長 森屋 洋(奥山ボーリング)
- 委員 山科真一(国土防災技術)
- 山田孝雄(奥山ボーリング)
- 渡辺 修(水文LLC)
- 事務局(テクノ長谷)